

IT資産管理ソリューション(ICD&BigFix)のご紹介

近年、サイバーセキュリティ対策の必要性、ライセンス形態の多様化に伴い、IT資産管理に関する業務が複雑化し、その必要性が増してきている。エクサのIT資産管理ソリューションは、IT資産に関するセキュリティ上の対策・コンプライアンスリスクの回避・TCO削減を狙ったものであり、「IBM Control Desk(略称ICD)」のIT資産管理/レポート機能と、「IBM BigFix(略称BigFix)」のパッチ配信/インベントリ収集機能を組み合わせたソリューションである。

【背景】

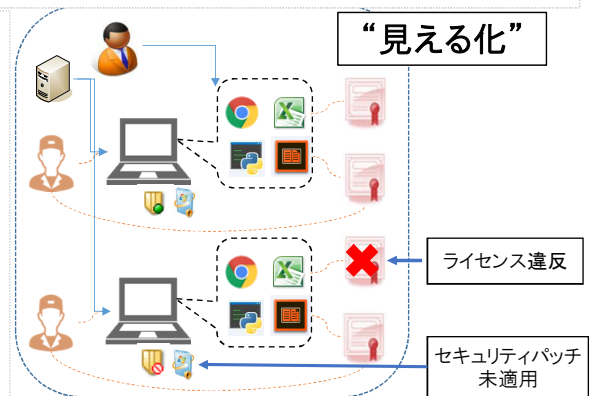
業務コストの最適化や、セキュリティ強化、コンプライアンス管理といった観点からIT資産管理の必要性が高まっている。

【課題】

- 1.管理負荷増大 : 仮想サーバやライセンスなど無形資産の管理の複雑化
- 2.コンプライアンスリスク : ライセンス利用状況のチェック、HWと契約情報の管理の必要性
- 3.セキュリティリスク : 最新のセキュリティパッチの適用率向上、適用状況の確認の必要性

【アプローチ方法】

- 1.企業内IT資産状況の見える化
HW/SW/ライセンス台帳を用いたICDによる情報の一元管理を実現し、BigFixによるインベントリ情報(KB情報、インストールSW等)の連携
- 2.セキュリティパッチの確実かつ効率的な配信
ネットワーク帯域(利用状況)にそって配信を制御する事で、業務影響を与えないセキュリティパッチ配信をBigFixで実施 セキュアな状態を維持する



【ソリューションの特徴】

- ① HW台帳/ライセンス台帳機能と契約情報との紐づけ
保守契約/リース契約情報をHW/ライセンスと紐づけることで、効率的な更新計画の作成、不要な契約更新を防止
- ② HW/SWインベントリの収集
BigFixで収集したHW/SWインベントリ情報をICDに連携することで、HW/ユーザ/組織単位でSWの利用状況、HW設定状況、パッチ適用状況を確認することが可能
- ③ Windows 10で肥大化されたパッチファイルの配信
BigFixの帯域制御機能、中継サーバ機能により、効率的に配信

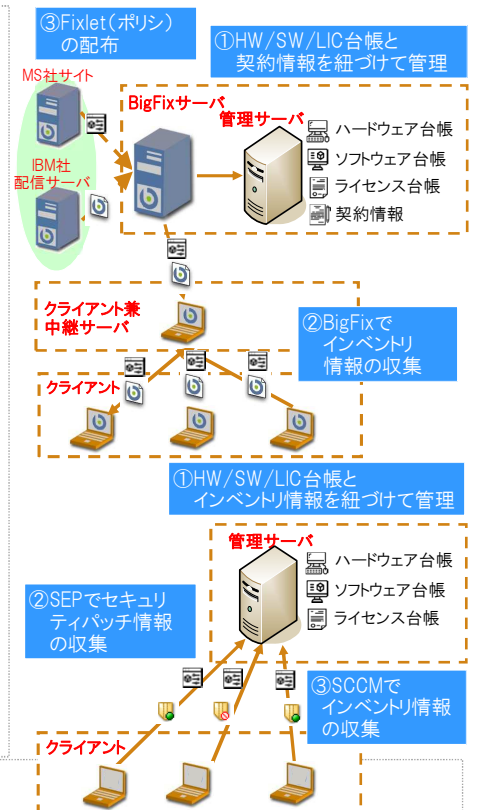
【某製造業者様の活用事例】

導入に至る背景

IT資産に関する台帳を1,000名規模で個別作成し、集約。監査するには、信頼性の高い台帳が求められる。

導入したシステム

台帳管理システムをICDで実現。ルール定義やワークフロー活用によって、データを統一した台帳管理を実現。インベントリ収集ツールからデータを紐づけることで常に最新を維持可能な状況となった。



エクサIT資産管理ソリューションの今後の展開

- Java、Adobeなどのアプリケーションパッチ、Windows/Linuxのサーバパッチへの対象を拡大
- 固定資産管理機能、構成/インシデント/問題/変更管理機能との連携を強化

※本資料に記載されているロゴ、システム名称、企業名称、製品名称は各社の登録商標または商標です。

ソリューション基盤技術部
荒川義之、和田康督
落合勇輝、石原有規